商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年5月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2016年5月6日～23日
- 調査対象 200社
- 回答企業 100社
- 回収率 50.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より3.8ポイント悪化の▲28.0。

2014年4月以来26ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、製造業、卸売業、小売業、サービス業の4業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲22.0と当月に比べ6.0ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、製造業、サービス業の2業種において回復が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2015年 12月	2016年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
業況	▲30.0	▲33.6	▲26.4	▲25.6	▲24.2	▲28.0	▲22.0
売上	▲20.0	▲28.4	▲22.7	▲19.2	▲20.2	▲28.3	▲14.8
採算	▲30.0	▲29.2	▲22.6	▲20.2	▲18.2	▲26.2	▲16.8
仕入単価	▲26.0	▲20.6	▲22.6	▲22.0	▲22.3	▲25.2	▲23.0
従業員	21.0	15.9	16.1	26.6	21.2	24.2	29.0
資金繰り	▲14.0	▲12.4	▲11.3	▲14.8	▲5.0	▲9.1	▲13.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2015年 12月	2016年 1月	2月	3月	4月	4月	先行き見通し 5～7月
建設	▲30.5	▲54.6	▲27.3	▲26.1	▲30.4	▲9.1	▲13.6
製造	▲23.1	▲14.3	▲14.2	▲23.1	▲11.5	▲16.0	4.2
卸売	▲30.0	▲33.3	▲40.0	▲28.0	▲25.0	▲42.1	▲42.1
小売	▲52.6	▲47.6	▲55.6	▲36.8	▲20.0	▲26.7	▲33.3
サービス	▲8.3	▲22.2	0.0	▲12.5	▲40.0	▲52.7	▲35.0

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・公共工事については 10 年度前からフェイドアウトしており、新分野に力を入れている・冬期間の工事減少から、資金繰りは悪化傾向にある。請負工事高は、積極的な営業展開により徐々にではあるが、契約件数が増加しているも、まだまだ不足している。従業員の退職による欠員募集中であるが応募はなく、従業員の不足状況が続いている。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震の影響はあまりない。公共事業関連がようやく動き出してきた。 ・前月同様 ・為替が円安に振れた時期の在庫負担及び市況軟化により利益が下振れしている。売上高は直近月がやや好調で、累計では若干ながら前年同月を上回る実績となった。 ・受注残は高めであるものの、ここ数ヶ月では減少傾向の区分も見られ、下期に向けて分析が必要。株価の下落などの不安要素も見受けられるため、各種イベントの効果測定に入る。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・石油製品全般において、価格上昇の傾向ではあるが、小幅なものになると思われる。 ・業況は前年度と同等。業界的に見て需要の停滞が売り上げ不振に繋がっている。 ・国の補正予算が熊本震災復興へ傾注されると思われるので発注が減少すると予測。 ・売上、粗利とも前年比 90%前後で推移。今後についても好材料が見当たらず期待できず。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・大型連休もあり、集客減少の解消も期待したが、例年に比べ落ち込みが大きかった。寒暖差が大きく来店客の様子見が目立ち、売上構成の高い羽織物や半袖アイテムの動きが鈍いのがマイナス要因。 ・原油価格の減少により仕入価格が減少し、販売価格も減少。また大型連休は天候に恵まれず、ガソリンスタンドを利用する客足が伸び悩んだ。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場は外国人旅行客の増加で前年並み程度の売上が見込めるものの、当面は新規ホテルが増えたことで苦戦予測。 ・観光関連の動きが小さい月。雪解けも早かったため減収傾向。 ・ゴールデンウィーク期間中、前年度より観光客が少なかったように思われる。売上があまり上がらなかった。 ・工場・店舗での人材不足。また同業者による商圈内の出店が影響している。 ・人材不足 ・ゴールデンウィーク中の宿泊者数は昨年並みに推移したが、その後の入込が悪い。昨年の様に国内客・ビジネス客・インバウンドの動きが悪い。全体的に見ると、天候も朝・晩の温度差があるのと、夏には選挙、年末には消費税の問題等で何かと動きが悪いような気がします。 ・G・W は天候が悪く売上低調。G・W後も消費者の財布のヒモが硬くなり客数、売上共に低調。 ・業界全体の問題として、若手技術者の不足が顕著である。 ・4 月は旭川市内・近郊のホテル等マイナス 10%落ち込みも、札幌を中心に他地域で頑張った結果、前年度 6%増。 ・新規ホテル参入、連休の天候も影響、インバウンド前年並も売上減少、減収減益。 ・労働者の高齢化、人件費アップと売上のバランス。 ・車輛（新車含む）売れない。修理は平年並み。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI5.3 ポイント悪化、採算 DI0.8 ポイント悪化、仕入単価 DI3.5 ポイント回復、資金 DI8.9 ポイント悪化、従業員 DI1.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 21.3 ポイント回復となった。業種別では、総合工事 10 ポイント、設備その他 50 ポイント、建築業 7 ポイント回復となった。業況回復も「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体は横ばい傾向。</p>
製造業	<p>売上 DI0.3 ポイント悪化、採算 DI12.8 ポイント悪化、仕入単価 DI12.5 ポイント悪化、資金 DI8.3 ポイント悪化、従業員 DI13.1 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 4.5 ポイント悪化となった。業種別では、印刷出版 40 ポイント回復、食料品横ばい、家具木材 33 ポイント、金属窯業他 10 ポイント悪化となった。受注残は高めであるものの、ここ数ヶ月では減少傾向の区分も見受けられ下期に分析が必要との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI27.1 ポイント悪化、採算 DI1.8 ポイント悪化、仕入単価 DI7.9 ポイント回復、資金 DI5.5 ポイント悪化、従業員 DI0.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 17.1 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、機械鋼材で横ばい、繊維 100 ポイント、その他 29 ポイント悪化となった。売上、粗利とも前年比 90%前後で推移。今後についても好材料が見当たらず期待できないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI6.7 ポイント回復、採算 DI20.0 ポイント悪化、仕入単価 DI6.7 ポイント悪化、資金 DI6.7 ポイント回復、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 6.7 ポイント悪化となった。業種別では、その他 10 ポイント回復、食料品、自動車で横ばい、衣料品 33 ポイント悪化となった。寒暖差が大きく来店客の様子見が目立ち、売上構成の高い羽織物や半袖アイテムの動きが鈍いとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI7.4 ポイント悪化、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI0.7 ポイント悪化、資金 DI2.8 ポイント回復、従業員 DI8.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.7 ポイント悪化となった。業種別では運送業 50 ポイント回復、クリーニング、ホテル横ばい、その他 25 ポイント、飲食 50 ポイント、整備業 50 ポイント悪化となった。G・W は天候が悪く売上低調。G・W 後も消費者のヒモが硬くなり客数・売上ともに低調との声も寄せられている。</p>